



新嘗祭は最も大事なお祭りの一つで、その年に収穫された穀物をご神前にお供えをして神恩感謝の祭事が行われる。栗は日本古来より五穀（いつつのたなつもの）として重宝され、古代には煙作作物の奨励筆頭として挙げられた。五穀は時代により内容の変化があるが、栗はいつの時代でも米と麦と並び重要な作物とされてきた。夏越大祓では有名な備後国風土記記載の蘇民将来に関する神話に於いても、蘇民将来が素戔鳴尊をもてなした際に供されたのは栗飯であつた。

この事からもわかる通り、栗は稗と並び日本人の主食として庶民に食されてきた。第二次世界大戦後、米が主食として十分な供給量を確保できるようになると次第に栗を栽培する量は減り、今では主食として食べられていました。ウルムに於いてその栄養価が見直され、ミネラルや食物繊維を多く含み、米と比較して低カロリーでも同じように五穀米として食べられています。

また、昨今の健康ブームに於いてその栄養価が多く栽培されている。今まで、古くより神道による供養、出雲大社の「御祭神」は縁結だけではなく幽冥主宰大神として死後の世界を司る神様として伝承される。日本では古来より神道文化の島国ではあるが、それより以前から出雲大社では神道の供養を通して、庶民の葬式やお墓の問題に積極的に関わってきた。明治維新において、國家神道とは立場をわかれ、神葬祭や埋葬の作通か

一 先祖供養は祖靈社でー
出雲大社相模分祠では、古くより神道による供養、祖靈祭祀を啓発している。出雲大社のご祭神「ダイコク様」は縁結だけではなく、幽冥主宰大神として死後の世界を司る神様として伝承される。



永代供養付き納骨堂のご案内

当社の信徒・崇敬者の方ならどなたでもご利用頂けます。実家が仏教でも新たに神式に改めることが可能です。納骨堂にご遺骨を安置して、鎮魂・供養を日々ご奉仕します。祖靈社のお預かり期間は原則として一年以上三十三年までとなります。弔い上げの際には、秦野市渋沢丘陵にある神道墓地に永代供養し、秦野の里山自然に還ります。のちの管理料など不安・問題も解消できます。たくさんの方々の祈りを集めます。たくさんの方々の祈りを集めます。お参りに来られる神社で安心の供養ができます。普段よ

◆ みたままつりのご案内
祖靈社にて、毎月第一日曜日午後三時より合同のみたままつりを斎行しております。（参加無料）
神事をあげて祭詞を奏上する中、御参列の方のご名前を一人ずつお読み上げして丁寧に供養致しま



納骨堂の祭祀料
三十二万円（税込）

令和二年十一月二十三日に宮中にて斎行された新嘗祭に於いて、この度、草山清和分祠長と崇敬者有志によつて栽培された穀穂が新嘗祭献上品として皇室に献上された。神奈川県では各農協の持ち回りで毎年新嘗祭の穀物を献上していたが、粟生産者不足により、この数年は米のみを献上し、昨年の大嘗祭に於いても神奈川県からは粟の献上は行われていなかつた。

そのことを懸念し、早速分祠長が自ら所有の畑で粟の栽培を始めた。令和二年は当分祠と縁の深いJAはだのが神奈川県の担当であり、分祠長以下有志により初めて粟を栽培し丁寧に収穫されたもの

内 庁掌典職より認可され、收穫し精粟したものと五合、出雲大社相模分祠・御嶽神社にてお祓い・奉告祭をした上で献上された。本来であれば生産者自ら宮内庁に赴き献上するものであるが、昨今の感染症流行の影響により、郵送での献納となつた。新嘗祭とは天皇陛下が、神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになつて、神恩を感謝する祭儀である。陛下自らも新穀をお召し上がりになる宮中恒例祭典の中の最も重要なものの天皇陛下自らご栽培になつた新穀もお供えになる。全国の神社に於いても、

秦野最大級のケヤキの樹林帶の中にある境内は、樹齢百年を超える梅の古木で囲まれます。例年、立春から二月頃が梅花の見頃となつております。春の息吹を感じ、梅花を見頃ながらお過ごし下さい。期間中は境内で甘酒（有料）を振る舞つています。

△甘酒作り
厚木の老舗「黄金井酒造」の酒粕を材料に巫女が手作りで作っております。一ヶ月にわたる梅まつり期間を通じて約500トルボトルのたくさんの甘酒が提供されます。体ほどもあ

先祖供養は祖靈社でー
出雲大社相模分祠では、古くより神道による供養、祖靈祭祀を啓発している。出雲大社のご祭神「ダイコク様」は縁結だけではなく、幽冥主宰大神として死後の世界を司る神様として伝承される。日本では古来より神道文化が全国に広まつた。そこで、明治維新において、国家神道とは立場をわかれ、神葬祭や埋葬の作通か

通常の社会では見かけない作法でござりますが、初めての職員でも鍛錬を重ね大神様に奉納することが叶います。



皇室への献上品 栗（あわ）の栽培

令和三年 新春行事

巫女舞・奏楽稽古の風景

太鼓や笛の音色が流れ、厳肅な神事が執り行われる。当社では見慣れた社頭の光景でございますが、見えない努力の積み重ねがあつて初めて神様にお仕えすることが叶います。